

D 11 静岡県における16歳から20歳男女の体型の年代変化に関する研究

—1967年、1978年、1991年の調査結果からの考察—

静岡大教育 大村知子 ○渡邊敬子 常葉学園大教育(非) 河村房代 静岡県立大生科研 長田直子

目的 科学的で合理的な被服の設計を行うためには、着用者の体型を把握しておくことが重要な要因の一つである。日本では1965年から1978年からの2回、工業技術院によって「既製衣料寸法基準作成のための日本人の体格調査研究」が行われており、この間の体型の変化が報告されているが、その後10年以上が過ぎた現在、全国規模での調査報告はみあたらない。

大学生に関しては、1978年の資料と1990年の調査結果の比較から、プロポーション等の変化が明らかになったので、本報では現在の16歳から20歳男女の体型と、約25年間、3回の身体計測結果にみる体型の年代変化の様相について検討した。

方法 調査は、1990年7月～9月に、静岡県に在住する大学生男女185名を対象に実施し、高校生については、1991年11月～1992年1月に、前2回の調査と同じ静岡県立某高等学校に在籍する男女370名を対象に実施した。調査方法は工業技術院体格調査の方法に基づき、男子50項目、女子52項目について、マルチン式計測器具などを用いて身体計測を実施した。比較資料は、工業技術院体格調査の静岡地区における1967年、および1987年調査の計測記録原票を用いた。今回は、26項目を用いて解析を行った。

結果 年齢・性別にそれぞれの項目の対身長比によるプロポーションの変化について比較した結果、後胴高・袖丈の対身長比は年代を追って順次大きくなる傾向にあり、背丈は小さくなる傾向を示した。周径項目の対身長比について年代比較をした結果、1978年の結果は1967年の結果より全体に小さく、細い体つきであったのに対し、今回の結果は全体に比が大きく、1967年および1978年成績より太い傾向を示した。